

浜の活力再生プラン
(第2期)

1 地域水産業再生委員会

浜プランID : 1102031

組織名	鱒ヶ沢町つがる市地域水産業再生委員会
代表者名	会長 富田重基 (鱒ヶ沢漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	鱒ヶ沢漁業協同組合、赤石水産漁業協同組合、鱒ヶ沢町、青森県西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所
オブザーバー	青森県農林水産部水産局水産振興課

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	鱒ヶ沢町・つがる市 底引き網：1名 底建網：23名、一本釣り：4名、刺網：5名、イカ釣り：3名
-----------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等


<p>青森県西部に位置する鱒ヶ沢町は、北に日本海、南には世界自然遺産「白神山地」の広大なブナ林を有する自然豊かな地域であり、農林漁業が主な産業である。漁業の種類は、底建網漁業・小型定置網漁業及び沖合底曳網漁業が主体であり、水産物は、初冬のハタハタ、冬から春のヤリイカ、春のヒラメに大きく依存している。近年、魚価の低迷や水揚量減少による漁業者の収入減、後継者不足、また燃油や資材高騰による経営コストの増加により水産業、漁業者を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。そのため、後背地の観光資源を活用しながら漁獲物の取扱い改善と販売促進による収入の増加と、燃油の経費削減による所得の向上に取り組む必要がある。</p>

(2) その他の関連する現状等

<p>増養殖活動として、アワビ・ナマコ種苗放流、アイナメ中間育成放流など、漁獲量の増大を図っている。</p> <p>資源保護関連では、県の資源管理指針や組合の資源管理計画、漁業権行使規則に基づき、漁獲体長制限や時間制限等を行い、資源保護を図っている。</p>

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

- ①沖合底曳網漁業者は、神経締めに取り組むことで品質管理への意識が向上したが、技術習得者や取扱量が少数で所得向上への寄与が少なかったことから、更なる技術者の育成に向けた講習会を開催し、取扱量を増加させて漁業収入の向上を目指す。
- ②底建網漁業者は、ヤリイカの船上箱詰めの一部の漁業者が取り組み品質管理への意識向上が見られたが、取扱量が少量で単価向上まで至らなかったことから、取り組み促進に向けた意見交換会を開催し、取扱量を増価させて漁業収入の向上を目指す。
- ③一本釣り漁業者は、品質管理や衛生管理、資源管理等への意識向上によりマダイの単価向上に貢献しているが、漁業者により意識・技術等に個人差がなくなるよう講習会を開催し、さらなる鮮度保持・品質向上を目指す。
- ④イカ釣り漁業者は、品質管理や衛生管理、資源管理等への意識向上によりスルメイカの単価向上に貢献しているが、漁業者により意識・技術等に個人差がなくなるよう講習会を開催し、さらなる鮮度保持・品質向上を目指す。
- ⑤刺網漁業者は、サザエの出荷時に滅菌海水装置で洗浄し衛生管理に努め、継続して品質向上を図る。
刺網漁業者は、品質管理や衛生管理、資源管理等への意識向上によりサザエの単価向上に貢献しているが、漁業者により意識・技術等に個人差がなくなるよう講習会を開催し、さらなる鮮度保持・品質向上を目指す。
- ⑥全漁業者は、船底清掃や減速航行による燃油コスト削減を継続する。
- ⑦漁協及び漁業者は、地元観光施設「海の駅わんど」内にある漁協直売所を活用した規格数量に満たない魚介類販売や、各種イベントやSNSを活用した販売促進の取組を継続する。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

青森県海面漁業調整規則、組合の行使規則の遵守。組合の資源管理計画による資源管理・資源保護に努めている。

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (平成31年度)

漁業収入向上のための取組	<p>◆品質改善等による取組内容</p> <p>①沖合底曳網漁業</p> <p>漁業者は、高温による鮮度劣化が懸念される夏場を中心として、漁獲物を収容する漁船内の魚槽を冷却して鮮度保持を図る。また、船上でのタイ・ヒラメ等の神経締めを行い、その後の迅速な箱詰め、施氷作業及び一般鮮魚との差別出荷等により、付加価値向上を図り、漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>②底建網漁業</p> <p>ヤリイカ漁において、船上箱詰めした「沖詰めヤリイカ」の単価を、他との差別出荷により向上させ、漁業所得の23%向上を目指す。これまで、漁獲物が魚槽に入りきらない際には、船上に野ざらしで寄港後に洗浄、箱詰めをしていたため鮮度や品質にばらつきがあったが、今後は、漁獲量を調整することで鮮度・品質の保持・向上に努める。</p> <p>③一本釣り漁業</p> <p>漁業者は、漁獲されたマダイ(2kg以上)の色揚げを目的として、船上で漁獲後直ちに血抜きするとともに、氷と海水を1対3の割合で充填した魚倉に収容し、魚体温度を一定(5℃以下)に管理する。また、釣獲された傷物の除外選別の徹底を図るべく、作業工程の見直しを行うことで魚価向上を図り、漁業所得の6%向上を目指す。</p> <p>④いか釣り漁業</p> <p>漁業者は、粉碎氷を平らに敷き詰めた魚箱に、イカを迅速かつきれいに並べ、すぐに蓋をすることで異物混入を防ぐ。また、魚箱をシートで覆うことで直射日光等による高温化を防ぎ、低温管理(5℃以下)を徹底することで魚価の向上を図る。さらに、溶解水によるイカの白色化を防止するため、箱の底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用することで漁業所得の13%向上を目指す。</p> <p>⑤刺網漁業</p> <p>漁業者は、相互監視によるサザエの漁獲時の殻高制限(殻高6cm以上)を徹底することで資源増殖に努めるとともに、サザエの餌場・生息場となる藻場を保護するため、ウニ等の害敵駆除にも取り組む。また、出荷時には、殺菌海水装置を活用した海水で一時飼育し、衛生管理および砂抜きを徹底することで漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>◆販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、地元観光施設「海の駅わんど」内の漁協直売所において、県内外から世界自然遺産白神山地観光に訪れる観光客等のニーズを踏まえ</p>
--------------	---

	て、数量規格に満たない鮮魚やその簡易加工品の販売戦略を立てる。また、町や観光協会などが開催する各種イベントに積極的に参加するなどして、試食や販売による水産物のPRに努める他、SNSを活用し情報発信・販売促進に努める。
漁業コスト削減のための取組	全漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど漁船船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の17%削減を図る。
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業、浜の活力再生・成長促進交付金

2年目（平成32年度）

漁業収入向上のための取組	<p>◆品質改善等による取組内容</p> <p>①沖合底曳網漁業 漁業者は、高温による鮮度劣化が懸念される夏場を中心として、漁獲物を収容する漁船内の魚槽を冷却して鮮度保持を図る。また、船上でのタイ・ヒラメ等の神経締めを行い、その後の迅速な箱詰め、施氷作業及び一般鮮魚との差別出荷等により、付加価値向上を図り、漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>②底建網漁業 ヤリイカ漁において、船上箱詰めした「沖詰めヤリイカ」の単価を、他との差別出荷により向上させ、漁業所得の23%向上を目指す。これまで、漁獲物が魚槽に入りきらない際には、船上に野ざらしで寄港後に洗浄、箱詰めをしていたため鮮度や品質にばらつきがあったが、今後は、漁獲量を調整することで鮮度・品質の保持・向上に努める。</p> <p>③一本釣り漁業 漁業者は、漁獲されたマダイ（2kg以上）の色揚げを目的として、船上で漁獲後直ちに血抜きするとともに、氷と海水を1対3の割合で充填した魚倉に収容し、魚体温度を一定（5℃以下）に管理する。また、釣獲された傷物の除外選別の徹底を図るべく、作業工程の見直しを行うことで魚価向上を図り、漁業所得の6%向上を目指す。</p> <p>④いか釣り漁業 漁業者は、粉碎氷を平らに敷き詰めた魚箱に、イカを迅速かつきれいに並べ、すぐに蓋をすることで異物混入を防ぐ。また、魚箱をシートで覆うことで直射日光等による高温化を防ぎ、低温管理（5℃以下）を徹底することで魚価の向上を図る。さらに、溶解水によるイカの白色化を防止するため、箱の底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用することで漁業所得の13%向</p>
--------------	--

	<p>上を目指す。</p> <p>⑤刺網漁業</p> <p>漁業者は、相互監視によるサザエの漁獲時の殻高制限（殻高6cm以上）を徹底することで資源増殖に努めるとともに、サザエの餌場・生息場となる藻場を保護するため、ウニ等の害敵駆除にも取り組む。また、出荷時には、殺菌海水装置を活用した海水で一時飼育し、衛生管理および砂抜きを徹底することで漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>◆販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、地元観光施設「海の駅わんど」内の漁協直売所において、県内外から世界自然遺産白神山地観光に訪れる観光客等のニーズを踏まえて、数量規格に満たない鮮魚やその簡易加工品の販売戦略を立てる。また、町や観光協会などが開催する各種イベントに積極的に参加するなどして、試食や販売による水産物のPRに努める他、SNSを活用し情報発信・販売促進に努める</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど漁船船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の17%削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>省燃油活動推進事業、浜の活力再生・成長促進交付金</p>

3年目（平成33年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>◆品質改善等による取組内容</p> <p>①沖合底曳網漁業</p> <p>漁業者は、高温による鮮度劣化が懸念される夏場を中心として、漁獲物を収容する漁船内の魚槽を冷却して鮮度保持を図る。また、船上でのタイ・ヒラメ等の神経締めを行い、その後の迅速な箱詰め、施氷作業及び一般鮮魚との差別出荷等により、付加価値向上を図り、漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>②底建網漁業</p> <p>ヤリイカ漁において、船上箱詰めした「沖詰めヤリイカ」の単価を、他との差別出荷により向上させ、漁業所得の23%向上を目指す。これまで、漁獲物が魚槽に入りきらない際には、船上に野ざらしで寄港後に洗浄、箱詰めをしていたため鮮度や品質にばらつきがあったが、今後は、漁獲量を調整することで鮮度・品質の保持・向上に努める。</p> <p>③一本釣り漁業</p> <p>漁業者は、漁獲されたマダイ（2kg以上）の色揚げを目的として、船上で漁</p>
---------------------	--

	<p>獲後直ちに血抜きするとともに、氷と海水を1対3の割合で充填した魚倉に収容し、魚体温度を一定（5℃以下）に管理する。また、釣獲された傷物の除外選別の徹底を図るべく、作業工程の見直しを行うことで魚価向上を図り、漁業所得の6%向上を目指す。</p> <p>④いか釣り漁業</p> <p>漁業者は、粉碎氷を平らに敷き詰めた魚箱に、イカを迅速かつきれいに並べ、すぐに蓋をすることで異物混入を防ぐ。また、魚箱をシートで覆うことで直射日光等による高温化を防ぎ、低温管理（5℃以下）を徹底することで魚価の向上を図る。さらに、溶解水によるイカの白色化を防止するため、箱の底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用することで漁業所得の13%向上を目指す。</p> <p>⑤刺網漁業</p> <p>漁業者は、相互監視によるサザエの漁獲時の殻高制限（殻高6cm以上）を徹底することで資源増殖に努めるとともに、サザエの餌場・生息場となる藻場を保護するため、ウニ等の害敵駆除にも取り組む。また、出荷時には、殺菌海水装置を活用した海水で一時飼育し、衛生管理および砂抜きを徹底することで漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>◆販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、地元観光施設「海の駅わんど」内の漁協直売所において、県内外から世界自然遺産白神山地観光に訪れる観光客等のニーズを踏まえて、数量規格に満たない鮮魚やその簡易加工品の販売戦略を立てる。また、町や観光協会などが開催する各種イベントに積極的に参加するなどして、試食や販売による水産物のPRに努める他、SNSを活用し情報発信・販売促進に努める</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど漁船船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の17%削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業、浜の活力再生・成長促進交付金</p>

4年目（平成34年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>◆品質改善等による取組内容</p> <p>①沖合底曳網漁業</p> <p>漁業者は、高温による鮮度劣化が懸念される夏場を中心として、漁獲物を収容する漁船内の魚槽を冷却して鮮度保持を図る。また、船上でのタイ・ヒラメ</p>
---------------------	---

	<p>等の神経締めを行い、その後の迅速な箱詰め、施氷作業及び一般鮮魚との差別出荷等により、付加価値向上を図り、漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>②底建網漁業</p> <p>ヤリイカ漁において、船上箱詰めした「沖詰めヤリイカ」の単価を、他との差別出荷により向上させ、漁業所得の23%向上を目指す。これまで、漁獲物が魚槽に入りきらない際には、船上に野ざらしで寄港後に洗浄、箱詰めをしていたため鮮度や品質にばらつきがあったが、今後は、漁獲量を調整することで鮮度・品質の保持・向上に努める。</p> <p>③一本釣り漁業</p> <p>漁業者は、漁獲されたマダイ（2kg以上）の色揚げを目的として、船上で漁獲後直ちに血抜きするとともに、氷と海水を1対3の割合で充填した魚倉に収容し、魚体温度を一定（5℃以下）に管理する。また、釣獲された傷物の除外選別の徹底を図るべく、作業工程の見直しを行うことで魚価向上を図り、漁業所得の6%向上を目指す。</p> <p>④いか釣り漁業</p> <p>漁業者は、粉碎氷を平らに敷き詰めた魚箱に、イカを迅速かつきれいに並べ、すぐに蓋をすることで異物混入を防ぐ。また、魚箱をシートで覆うことで直射日光等による高温化を防ぎ、低温管理（5℃以下）を徹底することで魚価の向上を図る。さらに、溶解水によるイカの白色化を防止するため、箱の底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用することで漁業所得の13%向上を目指す。</p> <p>⑤刺網漁業</p> <p>漁業者は、相互監視によるサザエの漁獲時の殻高制限（殻高6cm以上）を徹底することで資源増殖に努めるとともに、サザエの餌場・生息場となる藻場を保護するため、ウニ等の害敵駆除にも取り組む。また、出荷時には、殺菌海水装置を活用した海水で一時飼育し、衛生管理および砂抜きを徹底することで漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>◆販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、地元観光施設「海の駅わんど」内の漁協直売所において、県内外から世界自然遺産白神山地観光に訪れる観光客等のニーズを踏まえて、数量規格に満たない鮮魚やその簡易加工品の販売戦略を立てる。また、町や観光協会などが開催する各種イベントに積極的に参加するなどして、試食や販売による水産物のPRに努める他、SNSを活用し情報発信・販売促進に努める</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど漁船船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努める</p>

	ることにより、消費燃料の17%削減を図る。
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業、浜の活力再生・成長促進交付金

5年目（平成35年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>◆品質改善等による取組内容</p> <p>①沖合底曳網漁業 漁業者は、高温による鮮度劣化が懸念される夏場を中心として、漁獲物を収容する漁船内の魚槽を冷却して鮮度保持を図る。また、船上でのタイ・ヒラメ等の神経締めを行い、その後の迅速な箱詰め、施氷作業及び一般鮮魚との差別出荷等により、付加価値向上を図り、漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>②底建網漁業 ヤリイカ漁において、船上箱詰めした「沖詰めヤリイカ」の単価を、他との差別出荷により向上させ、漁業所得の23%向上を目指す。これまで、漁獲物が魚槽に入りきらない際には、船上に野ざらしで寄港後に洗浄、箱詰めをしていたため鮮度や品質にばらつきがあったが、今後は、漁獲量を調整することで鮮度・品質の保持・向上に努める。</p> <p>③一本釣り漁業 漁業者は、漁獲されたマダイ（2kg以上）の色揚げを目的として、船上で漁獲後直ちに血抜きするとともに、氷と海水を1対3の割合で充填した魚倉に収容し、魚体温度を一定（5℃以下）に管理する。また、釣獲された傷物の除外選別の徹底を図るべく、作業工程の見直しを行うことで魚価向上を図り、漁業所得の6%向上を目指す。</p> <p>④いか釣り漁業 漁業者は、粉碎氷を平らに敷き詰めた魚箱に、イカを迅速かつきれいに並べ、すぐに蓋をすることで異物混入を防ぐ。また、魚箱をシートで覆うことで直射日光等による高温化を防ぎ、低温管理（5℃以下）を徹底することで魚価の向上を図る。さらに、溶解水によるイカの白色化を防止するため、箱の底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用することで漁業所得の13%向上を目指す。</p> <p>⑤刺網漁業 漁業者は、相互監視によるサザエの漁獲時の殻高制限（殻高6cm以上）を徹底することで資源増殖に努めるとともに、サザエの餌場・生息場となる藻場</p>
---------------------	--

	<p>を保護するため、ウニ等の害敵駆除にも取り組む。また、出荷時には、殺菌海水装置を活用した海水で一時飼育し、衛生管理および砂抜きを徹底することで漁業所得の8%向上を目指す。</p> <p>◆販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、地元観光施設「海の駅わんど」内の漁協直売所において、県内外から世界自然遺産白神山地観光に訪れる観光客等のニーズを踏まえて、数量規格に満たない鮮魚やその簡易加工品の販売戦略を立てる。また、町や観光協会などが開催する各種イベントに積極的に参加するなどして、試食や販売による水産物のPRに努める他、SNSを活用し情報発信・販売促進に努める</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄・研磨するなど漁船船底清掃等を実施し、航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、消費燃料の17%削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>省燃油活動推進事業、浜の活力再生・成長促進交付金</p>

(5) 関係機関との連携

<p>品質向上については、県や（地独）青森県産業技術センター食品総合研究所と相談し、連携の上対応する。サザエの資源管理等についても県や（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所に相談し、指導を受けるものとする。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	<p>平成27年～29年の平均（1人当たり）</p> <p>沖合底曳網漁業： 漁業所得</p> <p>底建網漁業： 漁業所得</p> <p>一本釣り漁業： 漁業所得</p> <p>イカ釣り漁業： 漁業所得</p> <p>刺網漁業： 漁業所得</p>
	目標年	<p>平成35年度</p> <p>沖合底曳網漁業： 漁業所得</p> <p>底建網漁業： 漁業所得</p> <p>一本釣り漁業： 漁業所得</p> <p>イカ釣り漁業： 漁業所得</p> <p>刺網漁業： 漁業所得</p>

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

基準年の漁業所得は、組合申告書類を基に代表的な漁業者2～3名の過去3か年平均値を使用。漁獲数量等は県統計の過去3か年値を使用。
目標年の漁業所得の算出方法は算定根拠のとおり。

(3) 所得目標以外の成果目標

①沖合底曳網の船上神経締め の割合 ②ヤリイカの船上箱詰め の出荷割合	基準年	① 平成29年度： 0%
	目標年	② 平成35年度： 0%
		① 平成35年度： 15%
		② 平成35年度： 20%

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

算出根拠資料参照

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業	消費燃料の削減（漁船船底洗浄及び減速航行）
浜の活力再生・成長促進交付金	荷捌き所、製氷施設等の整備